



「これからの教育は、自分の考えを表明できる人間を育てないと」「自ら学ぶ力も大切だ」「いやいや心の教育が先でしょう」。たくさんのことが求められる昨今。でも、いい学びの姿は、身近なところにもたくさんあります。

26日の授業参観での子どもたちの姿から。

小さいけれど、すごいこと

堂々と

現在、本校の児童数は541人、一学級が30人前後です。自ずとたくさんの人を前にして発表する機会も増えます。「習うより慣れよ」です。何度も大勢の前で発表する経験を重ねながら、人前で話すことを恐れない度胸を付けてくれたらと思います。右の写真は、2年生が「かたかなで書くことば」を発表している一場面です。

先日、集団下校で、全校生を前に、児童会役員の子どもたちが横断歩道の渡り方の模範を堂々と示してくれたことがありました。上級生がいい姿を見せてくれています。「すごいな。あんな6年生になりたいな。」という憧れが、下級生を導きます。



この先どうする？

「先を見通して、学習の進め方を考え、課題を解決する力」と言われると少しためらってしまいますが、それほど難しいことではありません。4年生の授業では、次のような場面がありました。

先生「これをするのに何分ぐらいいるかなあ。」

子ども「2分。」「6分。」「4分でやってみようか。」

この些細なやり取りの中にも、自分の学習の仕方を考えながら、先を見通している姿があります。

4年生の子どもたちは、この後、写真のように集中してワークシートに漢字を書きこみました。集中した4分間が続きました。



自己肯定感

「あなたのいいところはどんなところですか。」と尋ねられると、「いやいや、私なんて取るに足らないもので……。」と言ってしまいがちです。6年生が道徳の授業で「自分らしく」という学習をしていたのですが、「ぼくは書くことがない」という子も何人かいました。近くに寄り、「小さなことでいいんだよ。『野球がうまい』となると、他にうまい子はもっといるかもしれないけど、『ボールを取るのがうまい』とか『走塁なら負けない』とか、どう？」とアドバイスを送りました。

ある子は、しばらく考えた末、「昔のことでもえんかなあ。」と言いながら、「前の学校でトイレの電気を毎日消していた」と書きました。とてもいいです。小さなことでも続けられることは大切な力です。継続する力は、きっと他のことにも生きてきますよ。

